

【短信】

大都会での教員生活

福島 陵

信州大学教育学部を卒業して、10回目の夏が来ました。東京での教員生活は忙しい日々ですが、最先端の知識を学ぶ場、よりよい授業を追求する仲間。教員として仕事をする上で必要なものは常に近くにある理想的な環境です。

大学を卒業後、中学校に採用されました。授業に部活動、苦い思い出の生活指導など、全てにやりがいをもって全力でぶつかりました。転機は特別支援学校への異動でした。言葉でのコミュニケーションが難しい自閉症の子供たちの担任になったのです。国語科の教員にとつて「言葉」に頼らない教育は試行錯誤の連続でした。しかしそこで得たものは、私の考え方を大きく変えるものでした。3年間担任し学んだことは、「教科書を読み込んで教えられないことがある」こと。そして「本気で向き合えば必ず伝わる」こと。私は現在、都心の高層ビルに

囲まれた小学校で特別支援教室の教員をしています。学習につまずいたり、集団にうまく適応できなかったりする子供は、どんな学校にも必ずいます。そんな子供たちへの指導方法は、教育実習では多くは学べません。試行錯誤して、悩んで、苦しんで、そんな経験の中でやっと身に付けられる力です。そしてその力は、教員として何にも代え難い財産です。これから教員を目指す皆さんには、ぜひまっすぐな気持ちで子供たちと向き合ってほしいと思います。

今でも信州の青い山々とお寺の鐘の音が思い出されます。信州で過ごした日々を支えに、今日も子供たちを迎えます。

(ふくしま りよう 東京都港区立赤坂小学校)